



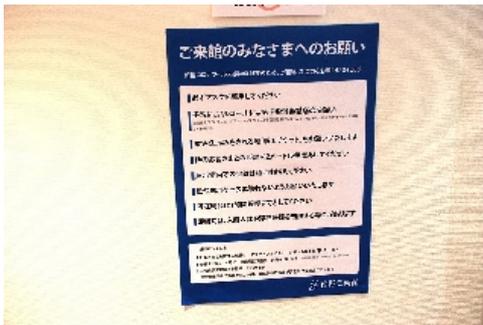
写真展 看板

佐野美術館入口

新型コロナウイルスの感染拡大を予防するため、令和2年4月から約2か月間にわたり休館していた佐野美術館(三島市)が6月12日(金)から営業を再開しました。

当美術館で開催されている、写真展「138億光年 宇宙の旅」は開催期間を8月30日(日)まで延長し、宇宙空間をとらえた天体写真を展示しています(写真上左)。本展では米航空宇宙局(NASA)の惑星探査機、観測衛星、地上約600kmの上空を周回するハッブル宇宙望遠鏡などからとらえた美しく壮大な天体写真を観ることができます。

新型コロナウイルスで沈みがちな今日この頃…元気と勇気を頂くため、6月14日(月)鑑賞と取材をしましたので紹介します。



お願い事項

地球1

新型コロナ感染予防のため、美術館入館前に体温測定と手の消毒を行い入館します。そして館内掲示の入館者への「お願い事項」(写真上左)を確認、遵守し、展示場への入室可となります。

＜地球1＞の写真左端の同心円状の地形は、アフリカ大陸モーリタニアの砂漠にある「リシャット構造」と呼ばれる地形で直径50km程あり、宇宙からでないと、このように全体を見ることはできません。長い期間をかけて浸食されてきたと考えられます。ランドサット7衛星が2001年1月にとらえた画像です。

＜地球1＞の写真中央は南太平洋上に浮かぶ雲を国際宇宙ステーションから2014年6月に撮られた写真です。写真下側に見える雲には、太陽の光が低い角度からあたっているため、影が長く伸びています。



地球2

地球3

＜地球2＞の画像はNASAの科学者とアーティストのチームが、地球観測衛星テラやアクア、スペースシャトルなど様々なミッションのデータを利用して作った地球映像です。上の方にはユーラシア大陸や日本列島、左側にはアフリカ大陸、右下にはオーストラリア大陸、そして日本列島やオーストラリア大陸東

岸には、都市の明るさも写っています。

<地球3>の画像は月探査機ルナー・リコネッサンス・オービターがとらえた「地球の出」です。探査機が月を周回しているため、探査機から見ると月の地平線から地球が昇ってくるように見えます。2015年10月に撮影された複数の画像を合成して作られました。



火星1



火星2

<火星1>この画像の中央を長さ2,000km、深さ8kmにも及ぶ大峡谷「マリネリス峡谷」が横切っています。火星は直径が地球の約半分の小さな惑星ですが、表面には地球で見られる地形をはるかに超える巨大な地形がみられます。バイキング探査機が撮った102枚の画像を合成して作られました。

<火星2>現在も活躍を続けている火星探査車キュリオシティの“自撮り画像”です。キュリオシティのロボットアームの先端に取り付けられているカメラで、2015年8月に撮影した数十枚の画像をつなぎ合わせて作成されました。キュリオシティの手前側にはドリルを使って掘削した穴も写っています。



木星1



木星2

木星は太陽系で最大の惑星で、半径は地球のおよそ11倍(約7万km)。主に水素とヘリウムガスでできていることから「巨大ガス惑星」と呼ばれています。

<木星1>木星はこれまで、1970~80年代にかけて、2機のパイオニアと2機のボイジャーが近くを通過しながら観測を行いました。その後、1990年代半ばから2000年代にかけてはガリレオ探査機が木星を周回しながら観測しました。現在はジュノー探査機が周回しながら観測を行っています。

<木星2>右の画像はジュノー探査機が南極上空から木星をとらえた画像です。このように木星の南極から撮影したのはジュノー探査機が初めてのことです。直径1,000kmにも及ぶ巨大なサイクロンも写っています。



土星1



土星2

<土星1>土星の最大の見どころは壮大なリングです。土星のリングは、比較的小さい望遠鏡でも地上から観測できます。リングの中でもはっきり見える部分をメインリングと呼ばれ、メインリングはいくつかに

分けられており、外側からA、B、Cリングとアルファベットを付けて呼ばれます。メインリングの幅は約6万2,000km、それに対し厚みはわずか数百mと非常に薄く、遠く離れて真横からリングをみると、1本の直線に見えるか、あるいは見えなくなってしまうほどです。

＜土星2＞この画像は、土星探査機カッシーニが2008年7月に撮影しました。この画像に写る土星には、リングの影がほとんど落ちていない。それは太陽の光がほぼ真横からあたるようになった時期に撮影されたからです。



冥王星1



冥王星2

＜冥王星1＞この画像は、無人探査機ニュー・ホライズンズがとらえた冥王星の全体像です。ハート形の領域は冥王星の発見者にちなんで「トンボ領域」と名付けられ、ハートの左半分は滑らかな氷原（スプートニク平原）が広がっています。

＜冥王星2＞この画像(写真左下)は冥王星の衛星カロンです。表面には溝のような地形が1,000kmにわたりのびています。北極地域の暗い部分は、冥王星の大気に含まれるメタンが化学変化を起こしてできた物質が積もっていると思われる。



太陽



銀河系

＜太陽＞この画像は太陽観測衛星SDOが2012年8月にとらえた太陽表面です。太陽の彩層のガスが噴き上がった「プロミネンス」が長くのびています。

＜銀河系＞これらの銀河系の星雲はハッブル宇宙望遠鏡等から撮影されました。太陽は銀河系に数多く存在する恒星の一つです。銀河系には1,000億ともいわれる数の星が存在し、それらの星の輝きは永遠ではない…星はあるとき生まれ、やがて死んでいく。銀河系では、そのような星の生と死のプロセスが至る所で進行中です。



カリーナ星雲1



カリーナ星雲2

＜カリーナ星雲＞(方向:りゅうこつ座、距離:7,500光年)の中心部付近をハッブル宇宙望遠鏡がとらえた大パノラマ画像です(写真上左右、中央部)。

私達のいる太陽系から、銀河系内の星雲や星団、そしてさらにその先にある無数の銀河など、天体の驚異的な姿を展示する、サイエンスでありながらアートの如く魅了する写真展は想像をはるかに超え…驚異の美しさでした…そして、元気と勇気と感動を頂きました。

<アクセスなど>

写真展「138億光年 宇宙の旅」
-驚異の美しさで迫る宇宙観測のフロンティア-

- ・場所:佐野美術館 三島市中田町1-43
- ・電話:055-975-7278
- ・期間:令和2年8月30日まで
- ・開館時間:10:00~17:00(入館受付は16:30まで)
- ・休館日:木曜日(祝日の場合は開館)
- ・伊豆箱根鉄道「三島田町駅」より徒歩3分
- ・駐車場有

取材:中伊豆地区担当 生きがい特派員 安藤 智章